

## 2024（令和6）年度 事業報告

社会福祉法人 ふくちやま福祉会

《1》はじめに

ロシアのウクライナ侵攻は、3年ぶりに停戦をめぐる直接協議の場が設定されたが、捕虜の交換と協議の継続で合意した一方、即時停戦の合意には至らなかった。その後もロシアはウクライナ各地に向けてミサイルや無人機によって侵攻後、最大規模の空爆を行い、ウクライナもそれに対抗（反撃）している現状である。

イスラエル、パレスチナ問題は、イスラエル軍は、ガザでのジェノサイド（集団殺害）を新たにエスカレートさせ、ネタニヤフ首相は5月19日の声明で「ガザ全域を支配する」と表明し、さらに攻撃を強める構えを示しており、ガザの非人道的な状況は極限まで悪化している。

アメリカのトランプ政権は、自ら決めた貿易協定を一方的に破り、各国に高い関税で脅しをかけ、自国の要求を通そうとしており、その影響が各国の貿易と経済の不安定と雇用への悪影響が出る可能性がある。特に米中の経済・貿易競争と南シナ海や台湾をめぐる安全保障問題は、複雑に絡み合っており、世界の安全や経済に大きな影響を与えている。

日本もその動きにあわせるかのように、2023～27年度の5年間で43兆円、27年度にGDP比2%（約11兆）を目指し、今年度の防衛予算（米軍再編経費など含む）は過去最大の8兆7000億円となった。（ちなみに備蓄米などコメ不足で大きな問題となっている農水省の農林水産予算は2.3兆円で、防衛予算の1/4である。）

防衛省（陸上自衛隊）では、台湾有事を想定し、戦傷に備えての輸血戦略の検討や、国外での多数の戦死者を想定して葬祭業界団体との間で協力協定の締結などを行っている。また、第二次世界大戦における科学者による戦争協力への反省から、思想良心の自由、学問の自由及び言論の自由を保障するために創立された日本学術会議を、政府は、より関与・介入・統制できる組織へと改組したい思惑もあり、法改正を進めている。

本来、憲法9条を持つ日本が、国際社会に対して戦争、紛争をとめるよう働きかけをする立場であるべきなのだが、反対に、国民の知らないところで、さまざまな分野において戦争する国づくりを進行させてきている。

社会保障においては、①介護分野では、訪問介護の報酬の切り下げにより休廃業件数が過去最多を記録するなど「極めて深刻な状況」となり、②医療分野では、与党と日本維新の会の3党が、国民医療費の「最低4兆円削減」などで合意し、5月末の社会保障に関する実務者協議では、全国の医療機関の病床数を11万床削減して1兆円の医療費を削減することで改めて合意し、6月の政府の「骨太の方針」に盛り込むことを目指している。（コロナ禍で医療崩壊したことを忘れてしまったのだろうか？）③障害福祉においては、予算の増加を抑えるため、生活介護や共同生活援助の報酬の減額などについて24年度からの報酬改定において決め、昨今の物価高騰の影響などもあり、厳しい経営状況が全国に広がっている。（全国知事会が、5月15日に介護、障害福祉サービスの基本報酬の次期改定（27年度予定）を待たずして臨時改定を速やかに講じるよう緊急要望書を提出した。）

そのような中で、5月末には、年金を物価や賃金の伸びより低く抑える「マクロ経済スライド」を温存させ、今後10年以上にわたって年金削減が継続され、実質10%年金給付水準が引き下げられる内容の年金改革法案（国民年金法改定案）が自民、立民、公明などの賛成多数で可決、成立した。

障害年金の認定基準が59年間、基本的に変わっていない「障害年金制度」に関しては、22年～24年に25回にわたって社会保障審議会年金部会が開かれたが、結局、様々な課題があるとして抜本的な改革の話はなく、5年後の定時改正まで先送りされた。4月には、24年度の障害年金の不支給が、前年度の2倍以上に急増し約3万人となることが報道され、低収入の障害のある人にとって障害年金の可否は死活問題として、当事者団体より調査と結果を公表するよう求められている。

なぜ、年金や社会保障にお金が回らないのだろうか？

①税理士などのグループが、もし政府が富裕層や大企業に対して、過去の所得税、法人税、相続税の最高税率ルールを適用し、負担能力に応じて税金を徴収した場合、58兆円の財源が生まれるとの試算を出している。

②厚労省の資料からは、過去30年間に大企業の利益は16.5倍、配当金は9.6倍、内部留保は3.5倍となり、23年度の大企業の内部留保は539兆円である。一方で労働者の実質賃金は30年間ほぼ横ばいで推移し、実質賃金はマイナス0.7%である。

③日本の富裕層の上位40人の資産額の合計は、12年前より3.8倍に増加して29.5兆円となっていて、うち、5.9兆円をユニクロ会長の柳井正氏、4.2兆円をソフトバンクグループ会長の孫正義氏、3.3兆円をキーエンス創始者の滝崎武光氏が保有し、他37人で16.1兆円の資産を保有する現状である（雑誌フォーブスの2024年日本長者番付の記事と過去の金額との対比）

上記の①②③のデータと社会保障の状況から考えてみると、国の福祉や社会保障（すべての人の命や人権を守ること）に対する捉え方の表れと政策実行力（財源の確保と分配の優先順位）、国民の政府に対する怒り（正当な方法により主張する力）の弱さ（あきらめ感）があるのかもしれない。

戦後80年、憲法9条のもとで、国民の不断の努力などにより、日本の平和が保たれてきた。防衛費の拡大、戦争に向けての準備は、いのち、暮らし、人権を最も脅かすものであり、社会保障は「平和と民主主義」の基盤の上に成り立つものである。

いまこそ、憲法に保障された人権としての社会保障の実現を目指し、社会保障が本来もつ所得再分配の役割が機能する公正な社会への転換を、参政権の行使、また、さまざまな運動により求めていくことが大切である。

## 《2》法人理念

障害の種別を超えて どんなに障害が重くても とともに活動できる場をめざしてきました。  
障害があっても 安心して働き、暮らし続けられる 地域社会を創りあげるために  
ふくちやま福祉会は 障害のある方を真ん中において地域の皆さんとともに取り組んでいきます。

『法人理念』に基づき、障害のある仲間の諸権利と豊かな生活を保障するために、また、福祉の発展を願う人々や団体とともに取り組みを進め、福祉の向上を目指します。

### —大切な視点—

「仲間一人ひとりの命や健康、尊厳を守り、個々が持つ願い、要求を重んじ、仲間本位の実践を行う」  
(職員本位、できない理由探しに陥らないように)

「権利擁護の姿勢、支援技術の高い職員を育成、共育し、法人の各事業所のサービスの向上を図る」

「主体的に、計画的に、協調性を大切にして仲間、職員、関係者の参加型での実践、経営を行う」

「「地域にとけ込み、福祉の充実・発展に寄与する」を基本に据え、きょうされん、後援会、親の会、地域の福祉の向上に取り組む諸団体等の取り組みに積極的に参加し、皆で学び、思いを共感・共有し、地域を変えていく」

## 《3》 事業報告（2024年度の事業計画の法人全体の重点事項がどうだったか）

法人第4次3ヶ年計画（2022. 8～2025. 3）の最終年度に取り組む重点内容を整理し、取り組みを進めた結果、どこまでできたのかを下記の表にまとめました。

視点	2024年度 取り組むこととして挙げた内容	結果がどうだったか
<p>（１） 仲間（の願い・要求、家族の思い）の視点</p>	<p>①ホームあつなかと同様に建て貸し方式を採用して、新たなグループホーム（１０名定員）、単独型の短期入所（３床）整備に向けた動きを進めます。</p> <p>②各エリアにおける機能（役割）の整理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●天津エリアにおいては、ぐるっほ広小路の生活介護の機能を移転させた上で、第２ふくちやま作業所、あまづキッチンと有効的な連携を図ります。</li> <li>●市街地エリアにおいては、広小路の建物を活用して、今後の支援学校卒業生をはじめとして新規のＢ型利用希望者を受け入れる環境を整えていきます。</li> <li>●奥野部エリアにおいては、障害の重い方、高齢となる仲間の方を受けとめる機能を充実させるとともに、環境整備（大型修繕）に向けて準備を進めます。</li> </ul> <p>③しごとＰＴを中心に、各事業所と連携して、障害の重い仲間、障害の比較的軽い仲間それぞれにあった仕事づくりを具体化していきます。（前年度の宿題）</p> <p>④仲間の願い、要求に沿った自治活動を行っていきます。</p> <p>⑤仲間、関係者に呼びかけて参集による懇話会を設定し、第４次３ヶ年計画での積み残し課題、また、新たな要望等を盛り込んだ第５次３ヶ年計画を策定します。</p>	<p>①２４年７月に、地元自治会（下篠尾）にて説明会を開催し、ご理解を得られたので、土地（建物）所有者との間で長期賃貸借契約を締結し、２５年４月１日より「ホームさそお」《共同生活援助（１０名定員）、短期入所（単独型３床）》を整備することができた。</p> <p>②天津エリアにおいては、４月に第２ふくちやま作業所を多機能型として、フラネ班（生活介護）を配置した。Ｂ型の仲間、職員にとっても、いい意味での刺激となっている。</p> <p>市街地エリアにおいては、広小路の建物にてイベント時の販売スペースやシルクスクリーン作業の場所として活用した。</p> <p>（立地の利便性を活かし、活用頻度を増やすと共に新規利用者受入の環境整備をしていく。）</p> <p>奥野部エリアにおいては、各事業所における人員体制の充足が十分に図れなかったため、支援内容の継続に留まった。大型修繕についての議論を進めることができなかった。</p> <p>③しごとＰＴの活動は、２３年度に続いて具体化を図ることができなかった。</p> <p>④週の取り組み、ボーナス取り組み、日帰り旅行、秋イベント等仲間の声を反映させ、職員と一緒に取り組みを進めてきた。</p> <p>⑤第４次３ヶ年計画において、具体化を始めた内容、また、具体化できず積み残した課題が多くあり、その内容を中心にして第５次３ヶ年計画を策定した。仲間、親、職員向けに計画策定に当たってのアンケートを実施し、多くの意見、要望が寄せられた。</p>
<p>（２） サービスの質の向上（各</p>	<p>①個人情報の管理に留意して、仲間一人一人の生活歴、経歴、留意すべき点（現病歴ほか）、希望すること、個人が持つ強み（スト</p>	<p>①前年度に引き続き、事業所間での情報共有を図り、個々の希望を確認して個人が持つ強み（ストレングス）が記載</p>

<p>事業所における業務プロセス・支援のあり方）における視点</p>	<p>レングス）等の情報を整理し、共有して、理解した上で支援ができるような仕組みを法人全体に広げます。</p> <p>②様々な機会において仲間、家族の声を聴き、事業運営に反映させていきます。</p> <p>③昨年度に受診した第三者評価の結果を基に法人全体で必要な改善を行います。</p> <p>④事例検討やレポート報告、交換実習などを行うとともに、外部の専門家からの助言等を得て実践の振り返りと支援の質の向上を図っていきます。</p>	<p>される支援計画に沿って支援を行った。全体で活用できる記録システムの検討は今後の課題である。</p> <p>②日々の送迎時、個別面談などの機会に寄せられた内容を共有し、実践や運営に取り入れるなどの対応を行った。</p> <p>③改善内容については、上記①の個別支援計画等の書式の統一、感染防止マニュアルを策定した。職員一人一人に合わせた人材育成体制、成人の事業所における福祉サービスの自己評価と改善策の実施、各マニュアルの整備（支援、仲間の作業時における統一した行動ができるよう内容がわかる・外部からの受け入れ態勢などを目的とした内容など）については、取り掛かり始めた段階に留まった。</p> <p>④25年3月に実践研修会を実施し、5つの日中事業所より1ケースずつレポート発表をしてもらい、5グループに分かれて議論した。支援を振り返る、また、他事業所の取り組みを知る良い機会となった。</p> <p>交換実習については人員体制の充足が図れなかったため行えなかった。</p>
<p>（3） 経営管理の視点</p>	<p>①法人理念について今一度 内容、意味を捉えなおす機会を作ります。</p> <p>②ホームページ、SNSなどを活用し、広報活動を強化します。</p> <p>③修繕計画の策定とそのための資金積立を着実に行います。</p> <p>④権利擁護・虐待防止委員会、感染症対策委員会、事業継続計画（BCP）策定委員会の活動の充実を図ります。</p>	<p>①新任職員オリエンテーションや全職員会議などにおいて話をする機会を持つように努力した。法人理念と日々の実践や運動課題とを結びつけて考えていけるようにする動きかけの弱さがあった。</p> <p>②広報ひめがみは4回発行した。</p> <p>ホームページの内容の定期的な更新に課題を残した。</p> <p>いくつかの事業所におけるInstagramの活用は継続中である。</p> <p>③今年度は1000万円の修繕積立を行うことできた。</p> <p>④虐待防止委員会、感染症対策委員会においては、研修を実施し、権利擁護と虐待防止、また健康管理について意識づけを行った。</p> <p>事業継続計画（BCP）策定委員会で非常災害時の計画を策定した。</p>
<p>（4） 職員の視点</p>	<p>①職員の行動指針を策定し、それが意図するところを全職員に浸透させていくとともに</p>	<p>①行動指針については、たたき台を作成し、理事会に提示した。その後の練り</p>

	<p>に、そのことを踏まえて実践、経営、運動に取り組むとともに、職員間での協調性やチームワークが向上する環境を整えていきます。</p> <p>②新規学卒者と5年以上の実務経験のある専門職（有資格者）の採用に注力します。</p> <p>③ペルパー人材を確保するため、介護職員初任者研修の受講を業務上に位置付け、正規職員の無資格者から順番に研修修了を進めていくとともに、経験年数と職務、職責に応じ必要となる各種研修の受講、修了を進めていきます。</p> <p>④京都府の福祉人材認証制度の認証を受けるための準備を進めます。</p>	<p>直しをして策定するまでには至らなかった。</p> <p>②24年度は全体で15名を採用し、うち6名が有資格である。（保育士3、介護福祉士1、栄養士1、精神保健福祉士（と社会福祉士）1） 新規学卒者を3年ぶりに採用することができ、25年4月で入職となった。 （なお、退職は11名である）</p> <p>③業務としての位置付けはできなかったが、職員個々へ資格取得支援制度の活用を促し、介護職員初任者研修修了者1名、介護福祉士実務者研修修了者1名、介護福祉士国家資格合格者1名となった。</p> <p>④人材育成計画、研修の組み立てまでの一連の流れと実施、また、職員評価の内容の確定ができず、宣言法人の継続となった。</p>
（５） 地域の視点	<p>①きょうされん運動、後援会活動の意義、役割について関係者全員が学び、理解をして制度改善を求めるとともに、地域福祉の前進のために地域の関係団体、民主的団体との連携を大切にして仲間、家族、職員、関係者が市民と繋がりながら一緒になって取り組みます。</p> <p>②法人が地域に還元していく取り組みの実施と必要な備品等の備蓄などを行います。</p> <p>③仲間の願いなどを盛り込んだ要望書を年1回秋頃に市に対して提出します。</p>	<p>①きょうされん、後援会の活動への参加については、仲間、親、職員、関係者それぞれに意識の差があり、知ってもらうこと、継続していくことを大切にして働きかけを行ってきたが、数字的には横ばいとなっている。 職員組合の力量もあるが、地域の団体との結びつきの弱さの改善が必要である。</p> <p>②昨年度につづき、秋イベントの開催、看護学生等の実習受け入れなどを実施した。天津エリアに関係する路線バスの路線の存続に協力した。 備品の備蓄については、追加の購入は行えなかった。</p> <p>③要望書の提出の代わりに懇談をする機会において物価高騰対策などについて要望を行った。 （市の単費補助や上乗せ、制度拡充の結果には結びつかなかった。）</p>

※取り組み途中・取り組みを開始できなかった内容については、第5次3ヶ年計画の内容に反映させ、2025.4～2028.3の中で取り組んでいく。

《4》各事業所の今年度（2024年度）の事業計画にて掲げた重点事項がどうだったか）

事業所名	2024年度 取り組むこととして挙げた内容	結果がどうだったか
ふくちやま作業所	<p>専門家によるアドバイスや研修における学びを活かしながら高齢・重度化する仲間の支援の充実を図ります。</p> <p>集団としての大きさ、年齢層の幅広さ、障害の多様性から柔軟性を持って環境整備や作業・活動に取り組めます。</p>	<p>訪問リハビリ指導で重度の仲間のストレッチの指導を受け日々の日課に取り入れました。麻痺のある仲間においては手足の体操を教えてもらい毎日職員と一緒に組み込まれるようになり、さらに相談したことで足の補装具を作り装着することに繋がりました。外部の研修ではきょうされん重度重複部会主催の事例検討会に参加しました。</p> <p>車いすの仲間の利用日増に向け、部屋内にスペース確保したり、照明を設置したりするなどの環境整備を行いました。作業においては仲間に応じた作業用具を作成したり、個別活動を通じて意欲向上に繋がったりしました。</p>
たんぽぽの家	<p>仲間の高齢化、重度化に伴い通院援助の充実を図ります。</p> <p>また、強度行動障害の仲間の支援・日課を見直し支援をしていきます。引き続き環境整備・空間の確保などを行っていきます。</p>	<p>高齢の仲間が増え、通院援助が増える中、看護師と相談しながら通院援助を行ってきました。</p> <p>また、職員が減になったことで仲間に安定した支援が困難な時がありましたが、他事業所から応援に来てもらい支援体制を構築してきました。</p> <p>環境整備は、法人との兼ね合いで行えていません。</p>
ふきのとう作業所 （リサイクル班）	<p>仲間の願いや思いに寄り添い、仲間の仕事（給料）を安定するために仲間に合った作業に取り組めます。また、仲間が安心し、いつでも通所できる場所の確保に努めます。高齢化、重度化していく仲間一人一人の実態に合わせた作業や支援に取り組みながら、ぐるっぽ広小路の活用も検討していきます。</p>	<p>リサイクル班が一緒になり、事業所としては安定した作業収入になっていますが、市の委託事業がいつまで続くのかという不安もあります。また、リサイクル作業も体力への不安がある仲間もあり、検討が必要になっています。</p> <p>一人暮らしの仲間が突然にお亡くなりになったことによる仲間の方への影響は隠せませんでした。仲間の年齢が高くなっていくので改めて仲間にどのように支援するか検討が必要です。</p> <p>ぐるっぽ広小路でシルクスクリーンの作業は注文分については納</p>

		品しました。更なる活用内容は模索中です。
法人事務センター	<p>事務機能の合理化をすすめます。(勤怠打刻システムの実務処理の円滑化、給与支給実務の見直し等)</p> <p>利用者負担金の入金の際の利便性を図るため振替銀行の拡充をすすめます。</p> <p>研修の充実を図ります。</p>	<p>勤怠打刻システムについては、毎月の会議の中で実務内容の修正を行いながら改善している部分もありますが、引き続き課題の抽出と解決に向けた取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>ネットバンクの利用は利用者負担金の口座振替も含め拡充と実用化を進めることができ、口座振替については24年度で35名の利用が増えました。</p>
第2ふくちやま作業所 (フラネ班)	<p>地域における販売会に積極的に参加し、また弁当の販路拡大や資源回収に取り組み、収入確保に努めます。</p> <p>ぐるっぼ班の合流による、新たな多機能事業所として、日中、生活における支援の充実(関係者との連携)を図ります。</p>	<p>収益確保のため、地域の販売会に積極的に参加しました。また新たな事業をすすめていくため、ぶどう事業を撤退しました。弁当班においては物価高の影響を受け、12月から値上げしました。</p> <p>フラネ班がかわり、仲間の自治組織への意識が高まりました。自治活動を通して行事を組み立て、内容の充実したとりくみをつくることができました。</p>
あまづキッチン(森カフェ)	<p>多くのお客様とのつながりを大切に、仲間の活動を多くの方に知っていただき障害への理解と支援の輪を広げるために、満足していただける食事やパン、アイスクリームなど製品づくりをしていきます。その中で、いろいろな障害がある仲間たちが、やりがいを感じたり安心して一緒に働けることを目指していきます。</p>	<p>あまづキッチンは10周年を迎え、来客の波や物価高騰など課題もある中で、価格改定やメニューブック刷新、電子決済導入など前向きな取り組みを進めました。</p> <p>ベーカリーやアイスの売上も好調で、仲間の活躍も広がっています。地域とのつながりを大切にしつつ、収入安定とやりがいある職場づくりを今後も目指します。</p>
ホームあつなか (ホームあつなか、あつなかSS、グループホームひだまり)	<p>利用者・親ともに高齢化がすすみ支援も多様になっている。利用者や家族の状況を把握しホーム職員で協議を重ね必要な支援を行っています。また、日中事業所との連携を深めます。</p> <p>利用者の健康を守るために医療との連携を大切にします。</p>	<p>入居者のご家族の高齢化に伴い、年々利用日数が増加しています。安心安全な生活のために休日の職員体制を増やし支援をしました。</p> <p>ホームさそお開設に向け、グループホームひだまりの利用者の方にあった生活を日中と連携して検討を重ね環境の整理を行いました。</p> <p>法人内の看護師への相談も継続して行いました。</p>

<p>ホームいさ (ホームいさ、いさSS、ホームまえた)</p>	<p>入居者・利用者の願いに寄り添うことを軸に、安心した地域生活を送っていけるように支援をしていきます。</p> <p>職員間での情報共有や意見交換を大切に、支援の方向性を確認し合いながら進めていきます。</p> <p>入居者およびそのご家族の高齢化やショート利用者の多様化などの課題に対し、日中事業所と連携しながら対応していきます。</p>	<p>年度末のコロナ対応においては感染の広がりもありましたが、入居者、ご家族のご協力をいただきながらできる限りの対応をしました。</p> <p>職員間においては月一回の職員会議、日常的なLINEでの情報共有など連携を大切にしました。</p> <p>また、多くの職員に強度行動障害支援者養成研修（基礎・オンラインにて）を受講してもらい、支援の質の向上を図りました。</p> <p>入居者、ご家族やショート利用者、ご家族の状況変化などにも合わせて利用ニーズに対してもある程度応えることができたと思います。</p>
<p>ホームにしなかの (ホームにしなかの、にしSS)</p>	<p>入居者、親共に高齢化が進んでいるため、週末利用の増に対応していきます。</p> <p>短期入所の受け入れの増加を図ります。(緊急ケース、それ以外)</p> <p>土、日の余暇活動を利用者と相談して取り組みます。</p> <p>強度行動障害支援者養成研修（基礎）の受講を進めます。また、他の外部研修への参加を進めます。</p>	<p>前年度につづき、週末も利用される入居者は3名でした、</p> <p>ホームさそおの開設にあわせて25年3月末に入居者1名にホームあつなかへの転居をお願いしました。</p> <p>短期入所については、24年3月における利用者の食事後の窒息事故をうけて受け入れを停止し、7月より再開しました。その後は50%の稼働率で推移しました。</p> <p>土日の余暇活動については、職員の支援体制が組めず、取り組みができませんでした。</p> <p>職員会議にて資料の読み合わせを行って学びを深めました。また、外部研修への受講の働きかけを行い、参加してもらいました。</p> <p>強度行動障害支援者養成研修の研修受講の準備はできませんでした。</p>
<p>ポップコーン ガイドヘルプふくちやま コーンクラブ昭和町</p>	<p>ヘルパー不足により利用者の希望に応えることが難しくなっています。ヘルパーの確保が最優先事項として取り組みます。</p> <p>利用者や家族との連携を取り、ニーズに即したサービス提供が図られてきました。サービス調整会議等により、更に深めていきま</p>	<p>ヘルパーの高齢化とヘルパー不足が大きな課題です。また障害者への理解がなければなかなか難しい事業になっています。5年、10年先に事業を継続できているのかという危機感は常にあります。</p> <p>若いヘルパーや学生ヘルパーが登録してくれるような取り組みも必</p>

	<p>す。</p> <p>オンラインや外部研修に参加する等、サービスの質の向上に取り組むとともに、研修の振り返りの機会を作ることで、学んだ内容を共有していきます。</p> <p>対応の難しい利用者の外出支援の困難さをどう解決していくのが課題になっています。</p>	<p>要になっています。</p> <p>利用者本人の要求の出しづらさもあり、利用目的がはっきりしていない、漠然と外出したい、家族から預かってほしいなどの利用希望が多くなっています。本人、家族へ聞き取りを行い、ニーズに応えられるように取り組みました。</p> <p>移動支援3名、行動援護1名の新規利用者がありました。</p> <p>年3回のヘルパー研修の実施、施設見学を取り組み、意見交換、振り返りを大切にしました。外部研修にも積極的に参加できるよう努めてきました。新たに1名が介護福祉士の資格取得ができました。</p> <p>対応の難しい利用者の外出支援に対し、2人体制への変更、関係機関とのケース会議、支援内容の見直しを行いました。</p>
<p>きらきら すまいる コーンクラブ三段池</p>	<p>利用するメンバーが変わり状況にあった療育内容を考察し提供できるように図られてきました。今後もメンバーの変更があるので、柔軟に活動内容を考察し内容の充実を図っていきます。</p> <p>報連相を意識し連携ミスのないように努めましたが、個人判断で連絡がない時がありました。今後報連相を重点的に意識していきます。</p> <p>保護者・関係機関との連携強化を進めてきました。年間計画を立て見通しを持ちながら今後進めていきます。また、状況に応じその都度連携を取れた面もあり、今後も継続していきます。</p>	<p>きらきらでは、過去最高の登録者数となりました。各グループにおいて活動内容を設定し取り組みました。</p> <p>すまいるも、季節に合わせた活動内容を設定し、放課後（第3の世界）を豊かに、友だちを意識し過ごせるように取り組みました。個々の子どもの様子に合わせ、ゆったり過ごす等の配慮をしました。</p> <p>報連相を意識し連絡等の連携ができました。何重にも確認をすることを心がけました。</p> <p>保護者・関係機関ともに必要な連携が図れました。関係機関とのやりとりも電話や送迎時、連絡会など様々な形態で柔軟に出来ました。</p>
<p>支援センターふきのとう</p>	<p>利用者、親の高齢化に伴い、生活支援が課題となるケースや介護保険との連携が必要になるケースをはじめ、子育て、介護、生活困窮など重層的なケースが増え、関係機関との連携がより重要となっ</p>	<p>複数の生活課題がある重層的なケースが増える中、事業所との密なやりとりや、ケース会議の主催、参加をし、多岐にわたる関係機関との連携を図ってきました。</p> <p>各会議（中丹圏域、福知山市自</p>

	<p>ています。</p> <p>作業所の仲間は、重度化、高齢化に伴い、入所を見据えた短期入所の利用も増えてきているように感じます。ひきつづき、本人、家族のニーズを丁寧に聴き取り、支援につなげていきます。</p> <p>相談支援専門員のスキルアップのため、各種研修等に積極的に参加します。</p>	<p>立支援協議会の部会、中丹支援学校進路相談ほか）へ参加し、地域課題について、関係機関と共有、検討してきました。</p> <p>各研修（精神、就労支援、リハビリテーション分野の研修、相談支援従事者現任研修等）に参加し、相談支援専門員としてもスキルアップを図りました。</p> <p>看護学生、精神保健福祉士の実習受け入れを行いました。実習指導の中で、自分たちの支援内容について振り返る機会となりました。</p>
地域活動支援センター OneStep	<p>引き続き個々の利用者への聴き取りを実施しながら、利用目的、希望する生活の目標に向けて、個々に合わせて事業所の活用を促し、利用日数の増加を図ります。</p> <p>新規利用者について、見学を経ても利用に繋がらないケースが多いため、紹介施設や相談支援事業所との連携を進めます。</p> <p>また、旧三町の支所へのはたらきかけを進めます。</p>	<p>人数は多くないですが、新規利用者を受け入れました。</p> <p>就労継続支援B型事業所など、他の事業所へステップアップされる方の移行支援を行いました。</p> <p>見学から新規利用につなげられるよう、他機関との連携を図っていきました。</p> <p>旧三町の支所へのはたらきかけについては、職員体制が不安定であり具体的な取り組みはできませんでした。</p>